

## 学校経営推進費評価報告書（2年め）

### 1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立西成高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力充実・生徒の自立支援
評価指標	1 中途退学率の低減 2 学校生活満足度の向上 3 授業アンケートと学校教育自己診断における授業への満足度の向上
計画名	西成高校「学びと支援の空間づくり」PJ

### 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>学校目標：「学びと支援の新たな結合による第三の教育の推進」（EPSの進化と深化）</p> <p>中期目標：①学習力をエンパワーする            学習力向上グループによる学習力向上の取組みにより、生徒を授業で動機付ける。            「授業力」向上から「学習力」へ着目点を変えることで、生徒に寄り添った「多面的な評価方法」を開発し、エンパワメントスクール（EPS）としての最大の目標、高校卒業と市民としてのチカラを育成する。</p>
事業目標	<p>エンパワメントスクールの中で唯一「知的障がい生徒自立支援コース」を併せ持つ本校は、他のEPSと違い、療育手帳所持者および支援学級在籍経験者が学年の約3分の1を占める状況となっている。従来からの生徒に寄り添った、人権・支援・キャリア教育の取り組みは全国でも有数の取組みをしていると自負しているところである。しかしながら、学習面については工夫や進化がまだ十分に至っていない弱みでもある。そのことが、中途退学率の減少が期待ほど実現できない理由となっていると考えられる。</p> <p>Y 生徒の学習力を伸ばすため、ICTによる教育活動のハードルを下げる。            Y 学校情報の共有化の促進            Y 生徒の居場所スペースを確保し、自学するスペースとする。</p>
整備した 設備・物品 (数量)	<p>Y 教室持込み用タブレット端末（教員教材呈示用）69台            Y USB変換アダプタ—69台            Y EZ Cast Pro LAN 22台            Y 渡り廊下居場所スペース用机4台、椅子8脚</p>
取組みの 主担・実施者	<p>Y 実施者は教員全体            Y 主担者：ICT環境の整備については、広報企画部が担当            授業、研修関係については学習力向上グループの3名の教諭が担当            拡大生徒支援委員会については生徒支援室長森指導教諭が担当</p>
本年度の 取組内容	<p>Y 先進的取組校への取材・視察（和歌山県立熊野高等学校、広島大学附属高等学校、福岡県立花高等学校ほか）            Y 教員対象の連続学習会（計15回）            Y 初任者（1名）による校内研究授業（11月）</p>

	<p>Y SSW、SC、居場所カフェのスタッフなど本校の生徒支援に関わる外部人材を含めた拡大生徒支援委員会の開催</p> <p>Y プチスタディコーナー設置</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>Y 学校教育自己診断アンケートの「授業はよくわかる」（平成 28 年度 51%）の項目を前年度比 5%向上させる。</p> <p>Y 中途退学防止について、中退率 6.6%をめざす。 （平成 28 年度末 8.6%・平成 29 年度末 7.3%（40 名／在籍 547 名））</p> <p>Y 西成高校に入学してよかった、の肯定感 48%を 55%にする。</p>
<p>自己評価</p>	<p>Y 学校教育自己診断アンケートにおける「授業はよくわかる」の肯定的回答 平成 28 年度 51%→平成 29 年度 1 年 78.2%、2 年 61.3%、3 年 65.1% →平成 30 年度 1 年 84%、2 年 78%、3 年 82% .....（3 学年とも非常に高い数値）（◎）</p> <p>Y 中退率（平成 30 年度 中退率 6.6%（37 名／当初在籍数 564 名））.....（○）</p> <p>Y 学校教育自己診断における「エンパワメントスクールにきてよかった」の肯定感 平成 28 年度 48%→平成 29 年度 1 年 71.8%、2 年 55.5%、3 年 55.5% →平成 30 年度 1 年 87%、2 年 89%、3 年 90% .....（3 学年とも非常に高い数値）（◎）</p>
<p>次年度に向けて</p>	<p>Y 学校教育自己診断アンケートにおける「授業はよくわかる」の肯定的回答 ..... ⇒ 現状を維持する</p> <p>平成 29 年度 1 年 78.2%、2 年 61.3%、3 年 65.1%から平成 30 年度 1 年 84%、2 年 78%、3 年 82%の数値を踏まえ、授業内容における学年間の接続を意識する（3 年間でトータルした教科シラバスを作成する）とともに、今年度購入したタブレット等の ICT 機器を授業や授業づくりに活用することで、今年度の数値を維持できるように取り組んでいく。</p> <p>Y 中退率..... ⇒ 数値目標は変更せず</p> <p>「プチスタディコーナーの設置による生徒の居場所づくり」に加えて、居場所カフェの充実とともに「外部人材間の連携」・「生徒支援をより充実させた校内組織の改編」・「生徒指導と生徒支援の連携」を軸に退学率を今後可能な限り少なくしていく。</p> <p>Y 学校教育自己診断における「西成高校に入学してよかった」の肯定感 ..... ⇒ 現状を維持する</p> <p>平成 29 年度 1 年 71.8%、2 年 55.5%、3 年 55.5%→平成 30 年度 1 年 87%、2 年 89%、3 年 90%をふまえ、上記の諸方策により、今年度の数値を維持できるように取り組んでいく。</p>